

データと機械化が支える「らいでんメロン」の信頼づくり JAきょうわ発足支所メロン集出荷選果施設(共和町)



【組織等の概要】

- JAきょうわメロン集出荷選果施設
- 所在地：北海道岩内郡共和町発足2417-2
- 主な出荷・販売先：札幌市、東京都、大阪府、愛知県など
- 取扱品種：赤肉（ルピアレッド、ティアラ、01、レッド113）
青肉（クラウン）



◇【取組の経緯と概要】

- かつてメロンの選果は人の目や経験に頼る部分が大きく、商品のばらつきが課題となっていた。
- また、どのようにすれば市場からの信頼を得ることが出来るのか模索していた。

◇【導入した主な機械及びシステム】

- ◆ メロン非破壊センサー（糖度、外観、重さ）
メロンの中心から皮までの糖度の平均、外観、重さについて確認する機械
- ◆ トレーサビリティシステム
選果日時・生産者情報、糖度や外観の情報、使用している肥料などの情報をシールひとつで管理するシステム

◇【取組時の課題と対応方法】

- 機械設備の導入、更新時に、多額の費用を要することから、関係者に対して、設備の必要性や効果について理解を得ることが課題となっていた。
- ⇒機械化による客観的な品質の評価と商品安定化が、「毎年美味しいメロンを安定して供給する産地」として市場の信頼確保につながることを説明するとともに、ブランドとしての「らいでん」の維持・向上に不可欠な取組であることを関係者に説明し理解醸成を図った。

◇【導入後の効果】

- メロン非破壊センサーにより基準をクリアした商品だけが市場に流通することで徐々にブランドとしての「らいでん」の信頼を積み重ねていった。
- トレーサビリティシステムにより、市場からの問い合わせに即座に対応することが可能となったことに加え、データに基づいた振り返りが行えることで品質改善が図られている。こうした取組により、近年は消費者からも高い評価を得ている。

【選果の流れ】



【糖度を測っている様子】



【外観を確認している様子】



【シールで管理されているメロン】



【「らいでんメロン」】

◇【今後の展望】

- 他の地域のブランド化されたメロンに比べてまだまだ認知度が低いと感じている。
- 今後は、「らいでんメロン」といえば「共和」となるように加工品も積極的に販売し、認知拡大を図っていきたい。